

2024年5月15日

参議院資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会

会議録抄

○**鬼木誠参議院議員** 立憲民主・社民の鬼木誠でございます。

まず、原発の再稼働に関して質問したい。

地元の理解を得るための十分な努力がなされているのか、あるいは安全性を最優先にしたような取り組みがしっかり出されてあるのか、ということについては少し疑問があるというのが正直なところ。

5月9日に東電が、柏崎刈羽原発で重大事故が起きた際に指揮を執る施設である緊急時対策所につながる電源ケーブルの一部について、火災防護対策が不十分であり、昨年も点検をしたが、その不備について見逃されていたと発表をされている。

柏崎刈羽については、テロ対策の不備などが続けて指摘され、規制委員会も追加検査を行うなど、再稼働に向けてはかなりいろいろ紆余曲折があつて現在に至っている。地元の不安や不信がある中で、四月末には核燃料装填が行われたが、地元同意は、まだ取れていない。

やはり、地元からすると本当に大丈夫かと心配されているし、本当に地元の同意について丁寧にしっかりと東電や政府が説明を尽くすつもりがあるのかという危惧、懸念があるのではないか。

一部の新聞報道では、東電の前のめり感というよりは、政府が再稼働を急いでいるのではないかという指摘がされている。

地元の住民の皆さんの気持ちに最大の配慮を行うことが、極めて重要と思っている。

地元の理解や安全最優先という再稼働の基本的な考え方について、改めて、経産省としての考え、そして今後の進め方等について伺う。

○**政府参考人（久米孝）** 柏崎刈羽原子力発電所については、昨年12月、過去の不適切事案に起因する原子力規制委員会による核物質防護に関する追加検査と適格性の再確認を終え、現在東京電力による自主的な改善の取り組みが進められている。

東京電力に対しては、齋藤大臣からも、信頼を得るには長い積み重ねが必要だが、失うのは一瞬である旨を重ねて伝えているところ。これを肝に銘じ、常に反省と改善を繰り返していくことが重要だと考えている。

また、委員から指摘があつた燃料装荷については、再稼働そのものではなく、機器の健全性を確認するためのプロセスの一環と承知をしている。

東京電力においては、地域の皆様に丁寧に説明を行うとともに、原子力規制庁の指導の下、安全最優先で対応してもらいたいと考えている。

原子力規制委員会が新規基準に適合すると認めた場合のみ、地元の理解を得ながら再稼働を進めるというのが政府の方針である。

地域の方々の理解を得られるように、柏崎刈羽原子力発電所の必要性、意義等について説明を尽くしていくとともに、能登半島地震で得られた教訓をしっかりと踏まえ、内閣府の原子力防災担当と連携しつつ、地域の避難計画を含む緊急時対応を取りまとめていくといったプロセスを踏みながら、地域の実情を踏まえ丁寧に進めていきたい。

○鬼木誠参議院議員

私たちは福島第一原発の事故を経験しています。あの事故は過去の事故ではなくて現在進行形で、除染も終わっていないし、廃炉も進んでおらず、今まさにある災害である。その災害を目の当たりにしているからこそ、慎重にも慎重を持って、緊張感を持って東電には対応いただきたい。経産省にもそういう対応を継続してほしい。